

令和6年度 文部科学省指定

マイスター・ハイスクール事業

研究実施報告書 第3年次



令和7年3月

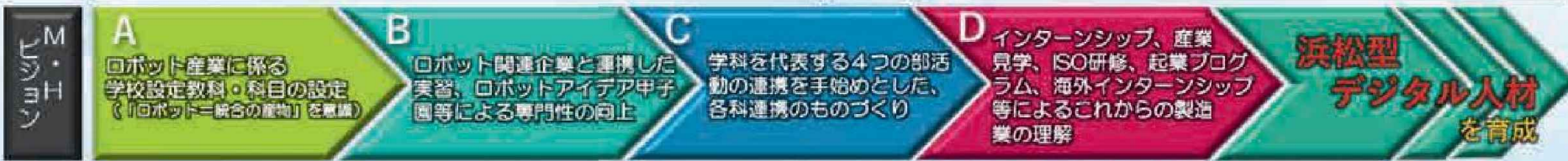
静岡県立浜松城北工業高等学校

研究実施報告書 目次

1 事業説明	
ビジュアル図 P1
目標と施策 P2
2 令和6年度 活動内容	
(1) 入学広報 P3
(2) 企業参画 P4
(3) 生徒育成 P5
(4) 学校設定科目 ～ロボティクス人材育成～ P6
(5) マイスター・ハイスクール海外インターンシップ P7
(6) 企業参画企画 ～Jタイムズ～ P8
(7) マイスター・ハイスクール事業成果発表会 ～ものづくり頂上決戦 JOHOKU—Iグランプリ～ P9
(8) 活動紹介動画 P10
3 活動の総括と自走化に向けて P11
4 管理機関あいさつ	
(1) 東京大学 名誉教授 佐藤 知正 P12
(2) 静岡県教育委員会 教育監 塩崎 克幸 P12
(3) ヤマハ発動機株式会社 執行役員ソリューション事業本部長 江頭 綾子 P13
(4) 浜松市 産業部 部長 北嶋 秀明 P13
(5) 静岡県立浜松城北工業高等学校 校長 寺田 弘隆 P14
(6) 静岡県立浜松城北工業高等学校 マイスター・ハイスクール CEO 都築 明宏 P14
5 マイスター・ハイスクール事業 名簿 P15

「やらまいか精神を取り入れた浜松型デジタル人材の育成プロジェクト」 ～社会で活躍できるスペシャリストの育成～

事業概要	ヤマハ発動機、浜松市、静岡県教育委員会及び本校の連携によって、 地元企業が求める人材像を共有 するとともに、 人間性と専門性を備えたスペシャリストの育成 を図る。	事業目標	本事業によって産業界と連携することで、 学校の魅力化 を図るとともに、 地域のロボティクス・デジタル人材育成の使命 を果たす。
------	---	------	---



スペシャリスト育成のための3つの目標とその施策

「目的」と「目標」を明確にし、仕事を「志事」に変える

共通目的

【スクールミッション】浜松地域に根差した工業高校として、地元企業との連携した教育を通して、社会で活躍できるスペシャリストの育成を目指す。

目標

- A) アドミッション・ポリシーに合致する多くの中学生が入学している。
- B) 本校での人材育成に賛同する地元企業が学校現場へ参入している。
- C) ロボティクスに精通する時代に合った生徒を育成する。

【ロボティクス人材の定義】「ロボットを作れる・使える・ロボットを使って課題解決ができる人材」

1

入学広報

- ・「学校PR」動画制作
- ・「学校案内パンフレット」改新
- ・「高卒就職の魅力」パンフレット&動画制作
- ・1日体験入学「ミニ四駆体験」実施
- ・校内広報「デジタルサイネージ」

2

企業参画

- ・企業からの「人材」の提供
- ・企業からの「体験」の提供
- ・企業からの「物資」の提供
- ・企業紹介企画「Jタイムズ」
- ・起業講話「浜松みらい塾」

3

生徒育成

- ・1年生「ロボティクス概論」
- ・2年生「ロボティクス実習」
- ・3年生「各科連携
ロボットテーマ課題研究」
- ・「海外インターンシップ」
- ・「グラウンド整備車」開発
- ・「ロボットアイデア甲子園」
- ・「国際ロボット展」見学

マイスター・ハイスクール事業活動内容①

1

入学広報

【目標】 ~多くの中学生が城北に入学している~

入学広報①

「学校PR」動画制作

- ・MH事業伴走者「株式会社ソフィア」の協力
- ・内容はMH事業の取り組みを中心に作成



入学広報②

「学校案内パンフレット」改訂

- ・「㈱共立アイコム」の協力
- ・「伝わる広報」と「デザイン性」を重視



入学広報③

「高卒就職の魅力」パンフレット&動画制作

- ・「高卒就職のメリット」や「実業高校の良さ」を掲載
- ・オープンスクールや模擬授業で中学生&保護者にアピール



入学広報④

1日体験入学「ミニ四駆体験」実施

- ・高校生中心の運営
- ・中学生参加型の体験入学
- ・体験前後で「入学したいと思う」中学生が倍増



入学広報⑤

校内広報「デジタルサイネージ」設置

- ・来校者への校内広報として設置
- ・動画やスライドを配信
- ・課題研究にて生徒が設置・設定
- ・正門掲示板のデジタルサイネージ化を実施
- ・好評につきディスプレイ増設中



We love JOHOKU!

マイスター・ハイスクール事業活動内容②

2

企業参画

【目標】 ～地元企業が学校現場に参入している～

企業参画①

・企業からの「人材」の提供

・「ヤマハ発動機」より2名を派遣

● 都築先生 (CEO)



● 南部先生 (実務家教員)



企業参画②

・企業からの「体験」の提供

・企業の教育現場への参入を表現

・ ↓参入企業↓ ※詳細は「③生徒育成」にて紹介

①「海外インターンシップ」受け入れ

○ヤマハ発動機

②「学校設定科目」講師

○ヤマハ発動機 ○ASTI ○新アパシエンジニア

○関のタクトフロンティア ○関日本設計工業

○関産洋務工務 ○関大洋製作所 ○関工業株式会社

○関Japan IT Produce

③「工場見学」受け入れ

○ヤマハ発動機

○関北トコス



企業参画③

・企業からの「物資」の提供

・「ヤマハ発動機」より課題研究の教材提供 ※詳細は「③生徒育成」にて紹介

① ヤマハ製ロボット3台



② ランドカー1台



企業参画④

・企業紹介「Jタイムズ」with「(株)ジュニアアスリート」

・「(株)ジュニアアスリート」代表取締役若松様全面協力

・「J」は、「Johoku」・「r.Athlete」・「Japan」

・1年生企画「放課後Jタイムズ」に5社参加

・・・各クラス1社×6週で全社から説明

○関のタクト ○関のタクトフロンティア ○関アパシエンジニア ○関北トコス ○関日本設計工業 ○関CEO

・2年生企画「自動車産業ガイダンス」に16社参加

・・・体育館でブース形式で興味のある企業から説明

○関アパシ ○イオンストア ○関小松自動車工業 ○小松工業 ○三井物産 ○関MKS

○関サンテックス ○関特産品製作所 ○関ソノクワ ○関各都島工業 ○平岡製作所

○関アパシエンジニア ○関北トコス ○関日本設計工業 ○関アパシエンジニア



企業参画⑤

・企業講話「浜松みらい塾」with「浜松市」

・地元企業4社が協力

○関のタクト ○関北トコス ○関アパシエンジニア ○関日本設計工業

・浜松市が仲介

・起業家精神を直接学ぶ機会

・クラス単位で実施



We love JOHOKU!

マイスター・ハイスクール事業活動内容③

3

生徒育成

【目標】 ～時代に合った生徒を育成する～

生徒育成①

・1年生「ロボティクス概論」

・学校指定科目として夏休みに5日間で実施

・R6_1年生27名参加

・「企業からロボットについて学ぶ」

- 1日目 静岡地区のロボットコンテスト 西谷川 様
- 2日目 南信濃テクノスポーツセンター 様
- 3日目 ASITRI 様
- 4日目 東アソシエーツエンジニアリング 様、東海建設工業 様、
藤本工業所 様、加大機製作所 様
- 5日目 南信濃テクノセンター 様



生徒育成②

・2年生「ロボティクス実習」

・「ヤマハ発動機㈱」全面協力

・学校指定科目として夏休みに5日間で実施

・R6_2年生20名 R5_2年生17名参加

・「産業用ロボットの基本的な知識と企業の業務を学ぶ」

・工場見学、座学、実務体験、製造体験、発表など実施



生徒育成③

・3年生「各科連携ロボットテーマ課題研究」

・「ヤマハ発動機㈱」高層の「ヤマハ製ロボット」を使用

・実務系教員 南部先生が指導

・テーマは「ロボットシステムインテグレータを体験する」

・R6研究内容

- ① 自動カルピス製造機「カルピスパー」
- ② 自動わたがし製造機「わたがしだけじゃだめですか」
- ③ 自動調理機器「ベジカッカー」



生徒育成④

・「海外インターンシップ」

・「ヤマハ発動機アビオシエ工場」全面協力

・国内工場見学！日本フライビン3泊4日

・工場見学・実務体験・ディーラー見学・観光など

・R6_12名 R5_6名参加（全学年）



生徒育成⑤

・「グラウンド整備車」開発

・「ヤマハ発動機㈱」高層の「ランドカー」を使用

・課題研究として実施

・テーマは「グラウンド整備車ロボットで楽にする」

・運動部員を中心に牽引物や散水機能を制作



生徒育成⑥

・「ロボットアイデア甲子園」参加

・日本ロボットシステムインテグレータ協会主催

・産業用ロボットの新たな使用法を考え発表するプレゼン大会

・全国大会出場を目指す

参加者：R6_28名 R5_40名 R4_37名

県大会出場：R6_4名 R5_3名 R4_2名



生徒育成⑦

・「国際ロボット展」見学

・東京ビッグサイト開催

ロボット専門展示会「Japan Robot Week 2024」見学

・生徒47名参加（希望者100名以上）

・最先端のロボティクス技術に触れ、ものづくりの楽しさと将来性を実感



学校設定科目 ～ロボティクス人材育成～

記事紹介



- 1年生 基礎**
 【ロボティクス概論】
 ロボットとのエンゲージングなファースト
 コンタクト、ロボットを知る
- 2年生 体験,蓄積**
 【ロボティクス実習】
 ロボットの構造、制御、操作を実習を通し
 て学ぶ
- 3年生 実践,深化**
 【ロボットテーマ課題研究】
 課題を創出し、ロボットを制御して解決す
 るシステムを構築する (Slur体験)



3年生

2年生



1年生



ロボ以外の課題研究にも
探究的な活動が高まった

マイスター・ハイスクール海外インターンシップ

目的 本校生徒が海外に進出している県内企業と交流し、海外での県内企業の魅力や競争力、貢献度などを肌で感じ、将来的に世界で活動する県内企業や関連産業で活躍したいと思う意識を高める。

研修先 ヤマハ発動機フィリピン工場 Yamaha Motor Philippines, Inc. (YMPH)

オンライン
海外インターンシップ(YMPH)



事前学習(特定非営利活動法人フィリピンノガサイザ)松本様による講話



渡航研修
(日本旅行 石川様)



24年2月

24年6月

24年7月

24年7月

24年8月



事前学習(英語)
引率教諭でもある大竹先生による自己紹介、個人での目標設定



事前学習(都築CEO)
研修に向けての講話



ヤマハ発動機本社工場研修 8/1

企業紹介



国内工場見学



Yamaha Motor Philippines, Inc.研修 8/4-7

Play Time (02:43)



マイスター・ハイスクール事業成果発表会 ～ものづくり頂上決戦 JOHOKU-1 グランプリ～

目的

マイスター・ハイスクール最終年度の成果を報告すると共に地域に取組を広げる。

- ①「生徒」が、発表を聞いて「私もやりたい」と思うキッカケとなる。
- ②「産業界 with 浜松市」が、MH事業の意義に共感して、参画意欲が高まる。
- ③「学校教職員」が、学校が変わった、楽しい、この波に乗りたい、と思うようになる。

発表会

令和6年12月23日(月) 12:40～15:30 @アクトシティ浜松大ホール



運営委員講評

発表生徒と観客席が一体に、活動を通じて「城北愛」が醸成された。画像・動画で分かり易い、専門分野ではない子たちにとっても、興味の出る内容。1人1人が自分の学校のブランドを背負っていることを体現出来ている報告。一皮むけたことを毎回重ねていることを実感。「作品集の展示の場」として良い。

活動紹介動画



令和6年
10月26日
・27日

Play Time (15:05)

静岡県立浜松城北工業高等学校

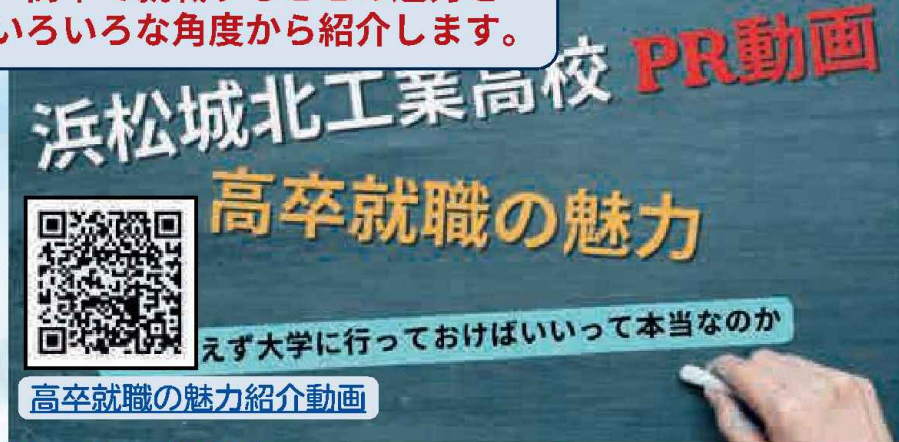
マイスター・ハイスクール事業を通じて

R6年度-全国産業教育フェアにて
生徒がMH事業活動を解説しています。



R6 全国産業教育フェア栃木大会 発表動画

高卒で就職することの魅力を
いろいろな角度から紹介します。



高卒就職の魅力紹介動画

Play Time (6:32)



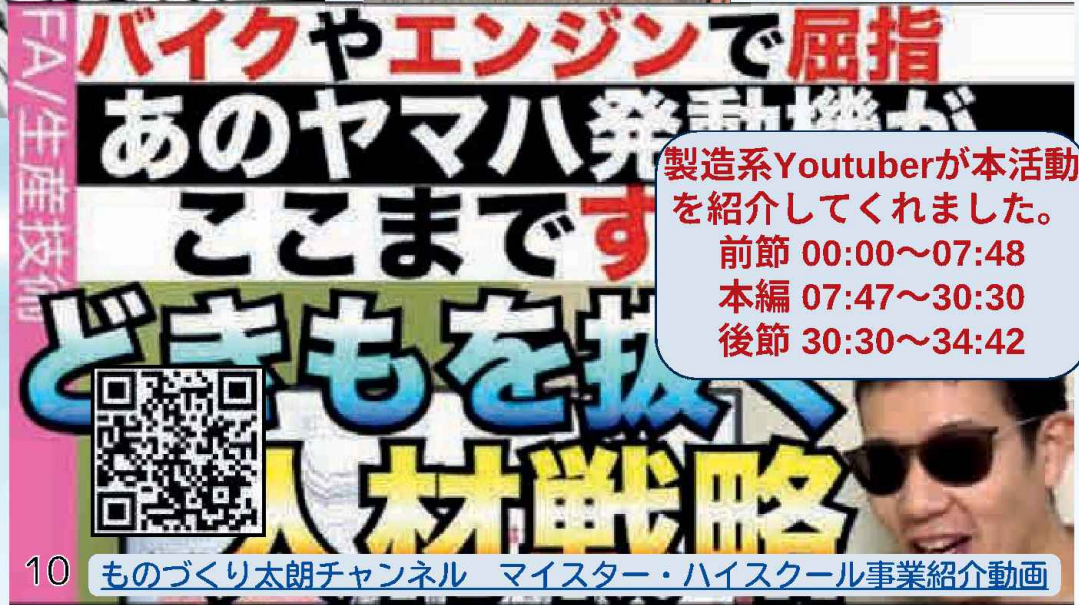
4科の実習の様子を紹介する
リール動画も作成しました。

Play Time (1:13)



4科実習紹介リール動画

Play Time (34:42)



製造系Youtuberが本活動
を紹介してくれました。
前節 00:00~07:48
本編 07:47~30:30
後節 30:30~34:42



10 ものづくり太朗チャンネル マイスター・ハイスクール事業紹介動画

活動の総括と自走化に向けて

分かったこと
指定期間で

- ① 中学生、教員、保護者に工業高校の魅力伝える事が可能。
- ② 企業のヒト・コト・モノを活用した行事は生徒の好奇心を刺激する。
- ③ 企業人と協働する授業は楽しいが少し難しい。生徒の学習意欲を高めるが、波及人数は限定的。

文科省伴奏事務局からのフィードバック

3年で効果的な取組成果を生み出し、更には自走に向けた絵が描かれつつある。残りの期間で各機関それぞれが達成したいことを明確にした上で、連携体制の確立を目指したい

出来た事(事業の成果・評価される点)

- ・ビジョン作成と共有・PDCAサイクルの実現
浜松型デジタル人材の育成ビジョンを定義し、PDCAサイクルを構築
- ・校内の推進体制の構築
業務効率化を含めたプロジェクト体制を整備
- ・企業との連携の実施
ヤマハ発動機との連携が進展し、更には他企業との協働も進行中
- ・生徒の主体性の引き出し
生徒の意志や主体性を引き出す取り組みと、発表の機会が生まれている
- ・学校から周囲へのPR発信
地元小学生や本校保護者に向けてMH事業や学校の魅力を効果的に伝達

今後の課題

- ・浜松市のエコシステム構築と持続可能性の担保(属人性的の脱却)
- ・静岡県(西部)の産業人材育成システムの構築についての検討

今後の展望と提案

- ・協働体制の強化：水平関係の構築と中長期ビジョンの策定
- ・自走の資金確保：自走化に向けた資金調達への検討



中長期ビジョン案

- 1st 浜松版マイスターを城北工業高校で確立
・浜松市(教育or産業部)が中心管理機関
・産業実務家教員は県教育委員会から派遣
・コーディネーターは産業界から派遣
・協力企業はビジョンに共感した企業が無償参画
- 2nd 工業高校を対象にMH活動校を複数校へ展開
※普及観点で何を展開しどういう姿を目指すかも検討
- 3rd 工高&製造業の成功例を他校&他業種に広げ静岡県(西部)の産業人材育成システムを構築

R9年度以降に目指す体制



浜松型-静岡県西部地区

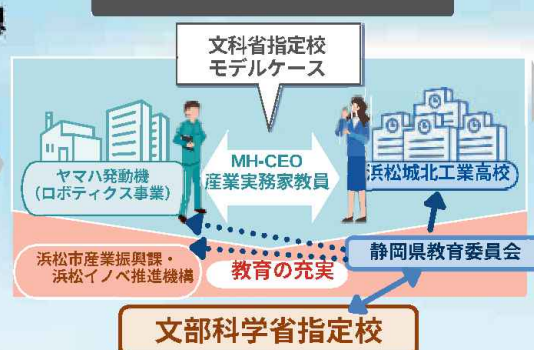
良い点
取組が持続的になる
様々な分野で連携した教育が可能になる
コーディネーターによって、学校負担軽減

懸念点
自治体や産業界と体制の構築が必要
コーディネーターの育成や活用に課題
導入時に現場教員の負担が増える
産業実務家教員の選任
コーディネーターと実務家教員の人員費の負担は企業？自治体？

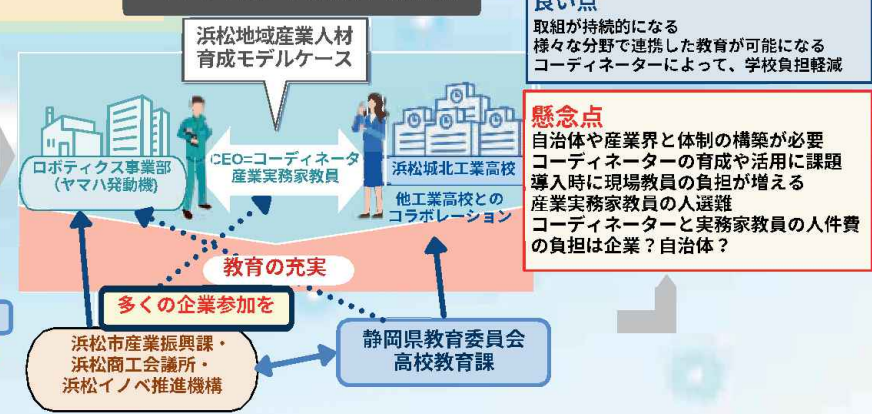
マイスター・ハイスクール事業 指定校後の浜松型マイスター自走化事業 中期・長期構想



R4-6年度 MH事業の体制



R7-8年度 自走化準備体制



従来(左図)の有効性を残しつつ、現状(中央図)の体制を整備し、地域に根付いた自走に取組み、将来の持続性や多様性を目指す

4 管理機関あいさつ



「優良案件“続城北マイスター・ハイスクール事業“に投資を」

東京大学

名誉教授 佐藤 知正

(優良案件)浜松城北マイスター・ハイスクール事業は、これまで3年間優れた活動成果をあげ、その継続が確実に高校でのイノベーション人材輩出につながる状況となっている。以下はその比喻説明である。筆者は、“バイブル”、“教会ミサ”、“パトロン”の庇護と宣教師”が、キリスト教を世界宗教にしたと考えている。本事業をこれとのアナロジーで説明すると、成果は次の2点に集約される。成果1)プロジェクトドリブン・スパイラルアップ・グローバルカリキュラムが“ふりかけ教材”として確立されたこと【これはキリスト教におけるバイブルに相当する】。成果2)生徒主体の生徒自身の作品集づくりイベント(Johoku-1 グランプリ)の効果が実感されたこと【キリスト教会におけるミサに相当】。これらの成果に今後、投資をともなう社会普及活動(教えることによる社会人の教育)【これは、パトロンに支援された宣教師活動に相当する】が加われば、本事業は高校の人材育成に資するのみでなく、育成人材を通じて浜松地域の産業振興に貢献し、世界展開をも可能にする。本事業は、優良案件なのである。

(地域投資の勧め)このように本事業は、生徒の学びにおいて、成果をあげてきた。今後は、その生徒を受け取る社会の出番である。社会は、何をすべきか?まず、地域社会がパトロンとして支援、いや投資することである。具体的には、人とモノ(含場所)と資金を提供し続けること、社会人が生徒の教育にかかわること(を通じて“教えることにより自分の経験を体系化した学び”を可能にすること)である。これが学校の人材育成のみならず、地域の人材育成に資し、ひいては地域の産業振興に結び付く。このような投資は、やらまいか精神の発揮のしどころではないか。本優良案件に、大いに“やらまいか精神”を発揮して、投資して下さることを祈念して筆をおきたい。



「地域と産業をつなぐロボティクス人材育成の新たな一歩」

静岡県教育委員会

教育監 塩崎 克幸

マイスター・ハイスクール運営委員会にて委員長を務めさせていただいております塩崎です。令和4年度より3年目を迎えた本事業は、ロボティクス人材育成にフォーカスし、産官学が一体となり地域特有の課題やニーズに応える形で進化を遂げてまいりました。持続可能な人材育成の礎となると確信しております。

特に本事業を通じて生まれた2つの学校設定科目、「ロボティクス概論」と「ロボティクス実習」は、ロボティクス技術を習得するだけでなく、地域社会とのつながりや協力の重要性を、地域産業の現場での活動を通じて理解する、より実践的な学びを提供するものであり、大きな成果であると捉えています。この活動を通じて地域の産業界との連携を深めた生徒たちは、将来の職業選択においても自信を持ち、地域社会に貢献できる人材へと成長していくことでしょう。

これも、管理機関や地域企業の皆様のご支援のおかげであり、深く感謝申し上げます。

令和7年度以降は、これまで以上に地域社会と産業界が主体となり人材育成に取り組む「自立型エコシステム」として発展させていくことについて、一定の道筋が明確化しました。

県教育委員会としても静岡県の産業の発展のために、地域に開かれた学校を支援し、次代を担う若者たちが夢を持ち、活躍できる未来を築いてまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



「ロボット活用の背景とロボティクス人材の重要性」
 ヤマハ発動機株式会社
 執行役員ソリューション事業本部長 江頭 綾子

少子高齢化に伴う労働力不足が深刻化する中、ロボットの活用が重要です。昨年、日本の出生数が初めて70万人を割り込み、2024年の日本人の人口は1億2156万1801人となり、前年より86万人減少しました。これは山梨県の総人口に匹敵する減少です。

生産年齢人口も2070年には約4割減少する見込みであり、すでに物流、建設、医療などの現場では、2024年問題と呼ばれる人手不足が顕著です。

このような背景において、自動化できる部分はロボットに任せ、人は人にしかできないことに集中することが加速しています。ロボットによる作業の遠隔化、軽労化、省スキル化が進んでおり、ロボットを同僚や相棒と見立て、一人の技能者ができる業務を最大化する取り組みも増えています。

これからの社会では、ロボットと人間が協力し合い、効率的かつ高品質な業務を実現することが求められます。産業用ロボットの導入と技術革新に加え、ロボットを設計・運用・保守する人材の育成、つまり、マイスター・ハイスクールのように、産学官の連携による人材育成と技術高度化が求められます。

浜松城北工業高校の皆さんも、ロボット技術の進展に注目し、自らの力を最大限に発揮できるスキルを身につけてください

参考 Web Link: [ヤマハ発動機スマートファクトリー Value Innovation Factory](#)



「今後の横展開へ期待を寄せて」
 浜松市 産業部
 部長 北嶋 秀明

昨今の人手不足の問題は、本市の基幹産業である製造業においては、特に深刻で、多くの企業の皆さんからご相談をいただいております。

そのような状況の中、「高校」と「企業」という全く違う組織が連携し、専門高校に産業人材を取り入れ、実習や研修等を行うマイスター・ハイスクール事業という先進的な取組が、ここ浜松で実施できることを誇りに思っています。

また、本事業も3年目を迎え、ロボットやデジタルで課題解決できる人材の育成や地元企業への就職など、すでに大きな効果がでていることを大変嬉しく思います。

本事業は、生徒が受け身で参加しているのではなく、学校生活では聞くことのできない企業人の生の声を聞き、刺激を受け、主体的に考えて実際に動くという、社会で必要とされる能力を育成する場となっています。高校生のうちにこのような機会に触れることは、個人の成長にとどまらず、今後の浜松の産業界にとっても大変貴重な財産です。

今後は、この素晴らしいモデルケースをぜひ他の高校・企業にも展開し、産業界を担う人材が活躍し、「ものづくりのまち 浜松」がますます発展していけるよう、全力でサポートしていきます。

参考 Web Link:

[マイスター・ハイスクール/浜松市](#)

[第2期はままつ産業イノベーション構想](#)





「やらまいか精神を取り入れた浜松型デジタル人材育成プロジェクト」
静岡県立浜松城北工業高等学校
校長 寺田 弘隆

本校のマイスター・ハイスクール事業は今年度が最終年度となりました。管理機関であるヤマハ発動機(株)、浜西市、静岡県教育委員会はじめ、関係機関、多くの地元企業の皆様に御支援をいただき、地域のロボティクス・デジタル人材の育成を目指し、生徒、教職員が一丸となって走ってきました。

この3年間で多くの取組を実践し、学校の魅力化だけでなく、生徒に「やらまいか精神」というエンジニアに必要な主体性を育むことができました。学校設定科目の履修生はロールモデルである企業エンジニアからの指導助言、対話によって将来の自分像を描く機会を得ました。また海外インターンシップ参加者は、課題提出や面接審査の校内選考をパスし、フィリピンの高い技術力、文化の違い、国の勢いなどを体験し大きな刺激を受けました。参加人数が限られた取組でしたが多くの生徒が希望表明してくれました。3年生の課題研究ロボットテーマでは、最先端ロボットで綿菓子ロボットを製作したグループが、2科の協働で、子どもたちを綿菓子で喜ばせたいという目的を明確化し、難しい機械システムに挑戦し、粘り強く試作を重ねました。これらはまさに初めての経験や失敗にも臆せず「やってやろうじゃないか」という心意気で果敢に挑戦する「やらまいか精神」の現われです。

最後に、本校がロボティクスを学べる学校として歩み始めることができたのは何よりヤマハ発動機(株)の都築 CEO、南部産業実務家教員の高い使命感と御尽力の賜物です。深く敬意を表し心から感謝申し上げます。



「3年間の‘ありがとう’と次の2年間に期待」
静岡県立浜松城北工業高等学校
マイスター・ハイスクール CEO 都築 明宏

本校が文部科学省より先進的な取組を行うマイスター・ハイスクールに指定され、実践研究を行い、実施3カ年を終える時期に為りました。

令和4年度から産業界から工業高校に出向し、産学官の皆さんと色々な壁にぶつかりながらもチャレンジ精神を忘れずにマイスターらしい学習プログラムを設計・実施してまいりました。

ロボティクス概論(1年次)・実習(2年次)、課題研究(3年次)、を筆頭にJタイムズ、海外インターンシップ、ミニ四駆中学生体験入学、海外インターンシップ、Johoku-1 GP 等々を開講して実施していく中で、私にとって一番の学びは、“生徒の皆さんが多くの作品集(PORTFOLIO)を見せてくれたこと”に尽きると思います。

今年のアクティビティ浜松の成果発表会 Johoku-1 グランプリ楽しかったですよね。観劇?に來られた企業の方々、浜松市役所、教育委員会・周辺校の方々、勿論保護者の皆さんと一緒にイベントを作り上げてくれた事、城北生徒の皆さんに感謝します。

去る1月31日(金)に東京田町まで出向いて文部科学省に対して本校マイスター活動の最終報告を行ってきました。(下段に当日の資料と動画リンク添付しました)。

マイスター評価会議委員の方々より、浜松城北はモデルケース。生徒が主体的に動き、先生がデザインしているベストプラクティスである。と高い評価を頂きました。皆さんのお陰です。

令和7,8年は浜松型として地域密着でマイスター続きます! 産学官”3本の矢“を活用して、みんなが楽しい学びの場を工夫していきましょう。



参考 Web Link: [R6 MH 事業成果発表会 R7,1,31](#)



5 マイスター・ハイスクール事業 名簿

① マイスター・ハイスクール運営委員会

氏名	所属・職	役割
池上 重弘	静岡県教育委員会 教育長	管理機関
塩崎 克幸	静岡県教育委員会 教育監	管理機関(代理)
設楽 元文	ヤマハ発動機株式会社 代表取締役社長	管理機関
江頭 綾子	ヤマハ発動機株式会社 執行役員ソリューション事業本部長	管理機関(代理)
中野 祐介	浜松市 市長	管理機関
北嶋 秀明	浜松市 産業部長	管理機関(代理)
佐藤 知正	東京大学 名誉教授(日本ロボット学会・元会長)	学識経験者
寺田 弘隆	静岡県立浜松城北工業高等学校 校長	指定校

② マイスター・ハイスクール事業推進委員会

氏名	所属・職
都築 明宏	ヤマハ発動機株式会社(マイスター・ハイスクール CEO)
南部 秀樹	ヤマハ発動機株式会社(産業実務家教員)
中村 大輔	静岡県教育委員会高校教育課・課長
大澤 貢	静岡県教育委員会高校教育課・指導監
山口 亮祐	静岡県教育委員会高校教育課・教育主幹
梨本 裕晃	静岡県教育委員会高校教育課・主査

中村 昭彦	ヤマハ発動機株式会社・人事戦略部 タレントマネジメントグループ
齋藤 昭雄	ヤマハ発動機株式会社・ロボティクス事業部 営業統括部・クロスセルグループ
下位 基弘	浜松市産業部・次長(産業振興課長)
八木 綾子	浜松市産業部産業振興課・主幹
山下 裕也	浜松市産業部産業振興課・主任
金子 和佳	(公財)浜松地域イノベーション推進機構 事業推進部・技術支援グループ長
井島 秀樹	静岡県立清水東高等学校・校長
寺田 弘隆	静岡県立浜松城北工業高等学校・校長
鈴木 浩	静岡県立浜松城北工業高等学校・副校長
橋本 徳一	静岡県立浜松城北工業高等学校・教頭
水野 聡子	静岡県立浜松城北工業高等学校・事務長

③ 校内分掌マイスター・ハイスクール推進室

氏名	職
鈴木 浩	副校長・統轄
橋本 徳一	教頭
都築 明宏	マイスター・ハイスクール CEO
南部 秀樹	マイスター・ハイスクール産業実務家教員
岡田 弘	マイスター・ハイスクール推進室長・入学広報担当・数学科
杉本 就平	生徒育成担当・機械科
藤永 健吾	企業参画担当・地歴公民科
山本 優花	庶務担当・国語科



城北にはたくさんの笑顔が溢れている



卒業生の活躍はコチラ!
ジュニアアスリートプラス
~Tsunagu~



JOHOKU

Instagramや動画で「城北」の魅力を発信中!

公式Instagram

生徒会Instagram

PR動画

学校紹介動画

高卒就職の魅力動画



静岡県立 浜松城北工業高等学校

School HP



〒430-0906 静岡県浜松市中央区住吉五丁目16番1号
TEL (053)471-8341 (代) FAX(053)471-4662

浜松城北工業高校